山 岳 遭 難 発 生 状 況

（令和８年１月１日～令和８年11月15日）
地域部　山岳安全対策課

１　山岳遭難発生状況（暫定値）　（令和７年数値は１月１日からの同期間数値）

区　　分	発生件数	死　者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令　和　８　年	338	53	5	157	155	370
令　和　７　年	349	49	4	166	164	383
前 年 同 期 比	−11	4	1	−9	−9	−13

２　山域別発生状況

区　　分		件　　数	件数比率	死　　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	60	17.8%	9	0	31	26	66
	後立山	87	25.7%	17	2	32	52	103
	その他	38	11.2%	5	0	21	14	40
計		185	54.7%	31	2	84	92	209
中央アルプス		27	8.0%	1	0	13	15	29
南アルプス		9	2.7%	2	1	4	2	9
八ヶ岳連峰		34	10.1%	5	0	15	17	37
その他の山岳		83	24.6%	14	2	41	29	86
計		338		53	5	157	155	370

３　態様別発生状況

区　　分	件　　数	件数比率	死　　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	93	27.5%	25	0	72	0	97
転　　倒	76	22.5%	0	0	76	0	76
病　　気	27	8.0%	10	0	0	17	27
道 迷 い	32	9.5%	0	0	0	42	42
落　　石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪　　崩	3	0.9%	2	0	1	0	3
落　　雷	2	0.6%	0	0	2	0	2
疲労凍死傷	49	14.5%	3	0	0	55	58
不明・他	56	16.6%	13	5	6	41	65
計	338		53	5	157	155	370

４　男女別・年齢別比率

区　分	男性 死者	男性 不明	男性 負傷	男性 無事	男性 計	（人）比率	女性 死者	女性 不明	女性 負傷	女性 無事	女性 計	（人）比率	男女計 人数	男女計 比率
１９歳以下	1	0	1	6	8		0	0	1	4	5		13	
２０代	2	0	6	18	26	49	0	0	2	5	7	28	33	77
３０代	1	1	5	8	15	20.0%	1	0	5	10	16	22.4%	31	20.8%
４０代	5	0	12	12	29	80	1	0	3	3	7	40	36	120
５０代	6	0	26	19	51	32.7%	1	0	21	11	33	32.0%	84	32.4%
６０代	15	2	20	24	61	116	3	0	21	9	33	57	94	173
７０以上	16	2	21	16	55	47.3%	1	0	13	10	24	45.6%	79	46.8%
計	46	5	91	103	245		7	0	66	52	125		370	
比　率	66.2%						33.8%							

（※　比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。）

先週の発生（11/9～11/15）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
11月11日	黒斑山	女	36	無事救出	道迷い	単独で黒斑山から下山中、道に迷い、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、道迷いによる山岳遭難が1件発生しました。

11月16日の長野市の日没は16時43分。樹林帯や沢筋等では日が陰るのが早くなる傾向があります。たとえ山頂に行き着かなくても、引き返しのタイムリミットを定めて行動し、遅くとも15時には下山するように、余裕を持った登山を心掛けましょう。

薄暗い中での行動は、登山道上の目印や方向感覚を失い易く、道迷いのリスクが高まるとともに、足元や周囲が見えづらくなり、転倒・滑落の危険性も高まります。

万が一、夜になってしまった場合でも行動できるように、ヘッドライトは必ず携行しましょう。

また、「怪我をしてその場から動けない・・・」等の不測の事態（遭難）に備えて、ツェルトやガスバーナー等のビバーク装備をザックに入れておきましょう。救助活動は翌朝からとなった場合、その場でビバークを指示することがあります。この時期の夜間は冷え込みが厳しく、悪天候や強風等が重なれば、厳しい環境下で長時間耐え忍ぶ必要があります。

登山に出掛ける前に、「万が一の状況に陥った際に何が必要なのか？」という視点を常に持って、必要な装備を準備しましょう。そして自身の体力や技量、天候等を冷静に判断して計画を立てましょう。